

# 第5・6学年 道徳科学習指導案

令和2年 6月18日(木) 5校時  
5年 男子4名 女子1名 計5名  
6年 男子2名 女子0名 計2名  
指導者 ○ ○ ○ ○

1 主題名 思いやりの心 内容項目 B-(7) 親切、思いやり  
教材名 「落とし物」 (学研「新・みんなの道徳5年」)

## 2 主題について

### (1) 主題設定の理由

#### ① 指導観

自分のことばかり考えたり、自分の思いだけを主張したりしては望ましい人間関係を構築することはできない。互いが相手に対して思いやりの心をもって接するようにすることが不可欠である。思いやりとは、相手の気持ちや立場を自分のことに置き換えて推し量り、相手に対してよかれと思う気持ちを相手に向けることである。そのためには、相手の存在を受け入れ、相手のよさを見だそうとする姿勢が求められる。具体的には、相手の立場を考えたり相手の気持ちを想像したりすることを通して励ましや援助をすることである。また、単に手を差し伸べることだけではなく、時には相手のことを考えて温かく見守ることも親切な行為としての表れである。相手のことを親身になって考えようとする態度を育てることが期待される。

特に学校生活においては、学校の人々や友達など様々な人と直接的に多様な関わり合いをもてるようにすることが求められる。その上で、相手の立場を考えたり、相手の気持ちを思いやったりすることを通して、思いやりや親切な行為の真義を実感できる機会をつくっていくことが重要である。

#### ② 児童観

この期の児童は、自他を客観的に捉えることができるようになってくる。そのため、相手の置かれている状況を自分自身に置き換えて想像できるようになる。また、家の周囲や学校といった狭い範囲だけでなく、地域社会における公共の場所など活動範囲がより一層広がり、より多様な人々と接する機会が多くなってくる。

指導に当たっては、特に相手の立場に立つことを強調する必要がある、自分自身が相手に対してどのように接し、対処することが相手のためになるのかをよく考えた言動が求められる。また、人間関係の深さや意見の相違などを乗り越え、思いやりの心とそれが伴った親切な行為を、児童が接する全ての人に広げていくことも大切である。そのために、児童が多様な人々と触れ合い、助け合って何かをするような機会を増やすとともに、それらの体験を生かし、思いやりの心をもつことの大切さについて深く考えられるように工夫して指導する必要がある。

#### ③ 教材観

本教材は、明日香と未来が転校するさくらの家に行く途中に、鍵を無くして困っている親子に出会い、一緒に鍵を探す話である。

一緒に鍵を探すが見付からず、さくらの出発の時間が迫ってくる。2人は見送りの時間に間に合わないと思い、一度は探すのを諦めたがやはり親子のためにまた探し始めた。最後は、鍵も見つかり、さくらの見送りにも間に合い、2人から感謝されるのである。

本教材は、相手の立場に立ち、友情を大切にできる心情や親切・思いやりの心をもつ大切さに気付くことができる教材である。本教材を通して、相手のことを親身になって考えようとする態度を育てていきたい。

(2) 教材について

○ 内容項目の系統（親切、思いやり）

<第1学年及び第2学年>

身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること。



<第3学年及び第4学年>

相手のことを思いやり、進んで親切にすること。



<第5学年及び第6学年>

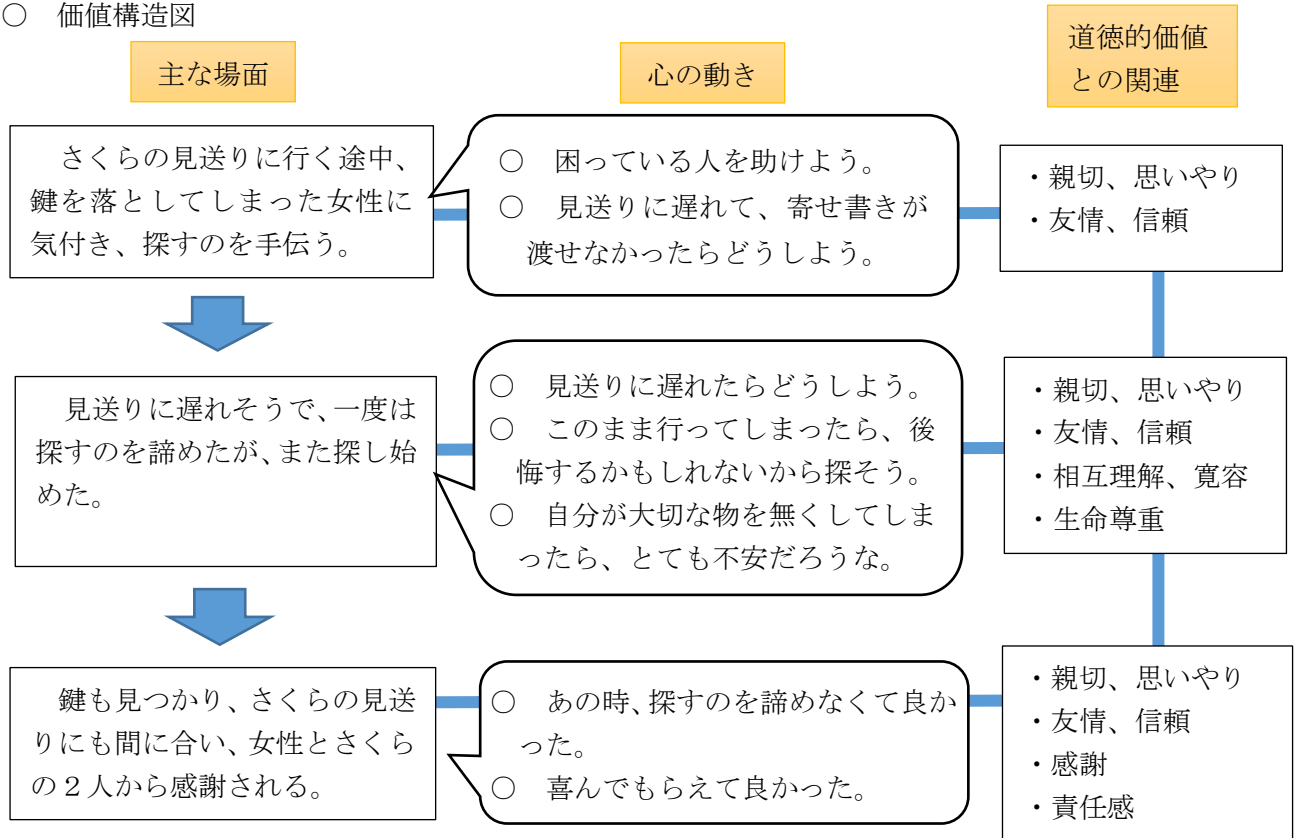
誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にすること。



<中学校>

思いやりの心をもって人と接するとともに、家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を深めること。

○ 価値構造図



(3) 児童の実態

本主題についての児童の実態は、以下のとおりである。

(調査日 令和2年5月15日 調査人数7人 質問紙法)

【道徳的価値から (①～③)】

① 友達や家族のために親切なことをしたいと思いますか。
はい 7人 いいえ 0人
② 親切なことをして喜ばれたことがありますか。また、どんなことをして、どんな気持ちになりましたか。
はい 6人 いいえ 1人
・家のお手伝いをして良かったと思った。 ・下級生に委員会の仕事を教えてあげた。 ・転んでいる人を助けてあげた。 ・ケガしている友達の本を返してあげた。 ・スリッパを並べてスッキリした。 ・トイレの手洗い場で、順番をゆずってあげた。 ・ケガしている人を助けて、嬉しい気持ちになった。
③ 親切なことをしたかったのに、できなかったことはありますか。どんなことで、なぜできなかったのですか。
はい 4人 いいえ 3人
・お年寄りが重い荷物を持っていたけど、知らない人だったから助けられなかった。 ・お年寄りが重い荷物を持っていたけど、勇気が出せなくて助けられなかった。 ・小さい子が転んでいたけど、他の人が先に助けた。 ・車いすの人が手こずっていたけど、恥ずかしかった。

【研究主題との関連から (④～⑥)】

④ 道徳の授業は好きですか。
好き 3人 まあまあ好き 2人 少し苦手 1人 苦手 1人
【好き】 ・みんなの考えが知れる② ・いろいろな物語があって面白い ・面白い ・いつもの生活のことを話せる
【苦手】 ・発表が多くて苦手②
⑤ 自分の考えを発表するのは好きですか。(いろいろな教科で)
好き 2人 まあまあ好き 2人 少し苦手 2人 苦手 1人
【好き】 ・みんなに褒められる ・自分の答えが合っていたら楽しい ・書いているけどできない ・好きだけど分からないときもある
【苦手】 ・恥ずかしい② ・考えがみんなと違って責められるのが嫌
⑥ 話し合いをするのは好きですか。(いろいろな教科で)
好き 3人 まあまあ好き 0人 少し苦手 2人 苦手 2人
【好き】 ・楽しい ・にぎやかになる ・意見が言いやすい
【苦手】 ・文句を言われる ・みんなが勝手なことを言う ・発表が多い ・文を読むのが苦手

(考察)

【道徳的価値から (①～③)】

①～③から、7人全員が親切な行為をしたいと思っているが、実際に実践できた者と実践欲はあったもののできなかった者がいることが分かる。また、親切な行為をしたことが無いと答えた者がいることから、小さなことでも自分の行いが周囲の人に好影響を与えていることに気付いていないと考えられる。

児童の普段の行いの中で、係や委員会活動等も親切な行いであることを話題にすることで、親切な行為について自覚をもたせる。実践欲をもたせたいうえで、実践できなかった時の背景について焦点化していきたい。

【研究主題との関連から (④～⑥)】

④～⑥から、道徳の授業は好きであるが、自分の意見を発表したり、話し合ったりすることを好んでいる者は約半数しかいない。その理由として、他の人の考え方との相違を気にしたり、話し合いが上手く行われていなかったりすることが挙げられる。また、自分の考えをみんなの前で発表することは恥ずかしいが、グループでの話し合いであれば言いやすいという児童がいることが分かる。

このことから、話し合い活動の際のルールを設定したり、全体発表の前にグループでの話し合い活動を入れたりするなどの工夫を行う。グループでの話し合い活動は、友達の意見を聞いて自分の考えが変わったり、増えたりするなど、多面的・多角的な考え方に発展することにもつながる効果も期待できる。また、自分の考えを書く活動の際には机間指導を行い、児童の考えを褒めたり、助言を行ったりすることで自信をもって発表ができるようにする。

3 指導の全体 (事前事後指導・他教科との関連)

次	道徳科の関わり	他教科活動の関わり	行事・体験活動など
事前	<b>&lt;「いじめをなくすために」 (公正、公平、社会正義)&gt;</b> 差別をすることや偏見をもつことが間違っていることについて改めて理解し、誰に対しても公正、公平な態度で接しようとする態度を養う。	<b>国語科：</b> <b>5年「みんなが過ごしやすい町へ」</b> <b>6年「私たちにできること」</b>  <b>学級活動：「男女仲良く」</b> 男女の違いを理解し、相手の立場に立って考えることで、仲良く過ごすことができる。	始業式 入学式 1年生を迎える会 交通教室教室 児童集会 健康タイム なかよし体育 なかよし音楽 音読発表会 プール清掃 避難訓練 綱引き大会 水泳大会
本時	<b>主題名： 思いやりの心</b> <b>教材名： 「落とし物」 (学研「新・みんなの道徳5年」)</b> <b>中心価値： B-(7) 親切、思いやり</b>		
事後	<b>&lt;「言葉のおくりもの」(友情、信頼)&gt;</b> 日常生活の中で、男女関係なく互いの立場や意見を尊重することで友情を深め、よさを認め、信頼し合いながら人間関係を築いていこうとする心情を育てる。	<b>体育科：「水泳運動」</b> 泳ぎ方のコツを友達と教え合ったり、2人組で学習したりすることで協力することの大切さを学ぶ。  <b>ふるこみ：「黒木の米づくり」</b> 米作りについて、協力してくださる地域の方々に感謝の気持ちをもつことができる。	<b>常時活動</b> ○係や日直の仕事 ○朝のボランティア活動 ○たてわり班掃除 ○帰りの会のちょボラ ○帰りの会の「今日のキラリ」発表

#### 4 研究主題（仮説）との関連

研究主題と本授業を関連付けていくために、次のような手立てをとっていく。

(1) 仮説1 道德の時間において、考え・議論する場や方法、自覚化を促す工夫をすることで、**深い学び**が実現するのではないか。

- ネームプレートを用い、自分や友達の考えや立場を可視化することで、議論をしやすくする。また、考えの変容を見取りやすくするために、ネームプレートの表と裏で色を変える。
- 事前にとったアンケート結果を導入と終末で話題にすることで、自分の問題として捉えさせる。

(2) 仮説2 板書や資料等の指導方法を工夫改善したり、見取りの視点を設定し評価につなげたりすることで、指導に生かし、**道德性を高める**ことができるのではないか。

- 登場人物の関係や考えさせたい場面を明確にするために、人物の相関図を提示する。
- 指導過程「高める」において、ワークシートに「これまでの自分」、「今日学んだこと」、「これからの自分」の観点で自分の考えを書かせることで、自覚化を促す。
- 見取りの視点に沿った本時の目標を設定し、指導に生かすことで道德性を高める。

#### 5 本時

##### (1) ねらい

相手の置かれている状況を自分自身に置き換えて考え、思いやりの心を持ち、温かく親切に接しようとする心情を育てる。

- 見取りの視点と本時の目標（具体的な姿）

視点	① 価値理解、人間理解、他者理解などの道德的価値を自分自身との関わりの中で深めているか	② 多面的・多角的な考え方へ発展しているか	③ 自己の生き方について考えを深めているか（これからどうしたいか）
具体的な姿（上学年）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の立場に立って考えているか（発言・ワークシート）</li> <li>・よいと思っけていてもなかなか行動に移せない心の弱さを理解しているか（反応）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の意見を聞いて、自分の考えが増えたり、変わったりしているか（発言・ワークシート）</li> <li>・自分が登場人物と同じような場面に出合った時、自分はどうすればよいかを考えているか（発言・ワークシート）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業を終えて、自分はこうありたいという考えを言葉や文字に表しているか（発言・ワークシート）</li> </ul>

##### (2) 指導に当たって

###### ① 気付く

アンケートの結果からこれまでの生活を振り返らせ、本時の主題にかかわる「思いやり」について話し合い、めあてを立てるようにする。

###### ② さぐる・見つける

教材文を読み、人物相関図を用いることで話のあらすじを振り返るとともに、考えていきたい場面や価値に焦点化する。また、「自分だったらどうするか」と問うことで、自分事の課題として捉え、価値の自覚化を図る。

###### ③ 深める

「これまでの自分」「授業で学んだこと」「これからの自分」の観点で考えたことを書かせる。初めに今までの自分を振り返り、反省点や良かった点をまとめる。次に、今回の授業で学んだ道德的価値や価値を実践するために大切なことを確認する。最後に、これからの自分はどのように行動していきたいかという思いを文章化することで、価値実践の意欲化を可視化する。

###### ④ 高める

導入で話題に挙げた場面を再提示し、同じ様な場面に出会ったときに、どのように行動すればよいかを考えさせることで、学んだ価値を実践する意欲を高める。

(3) 実際

指導過程	主な学習活動・予想される児童の反応	時間(分)	教師の具体的な働きかけ ※評価(評価の手段)
価値の意識化	<p>1 アンケートの結果から、親切な行動ができた時とできなかった時のことを思い出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ケガしている友達の給食を配ってあげた。</li> <li>・ 荷物を持ったお年寄りを手伝えなかった。</li> </ul> <p>2 めあてを立てる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>親切なことをするためには、どのような気持ちが必要だろうか。</p> </div>	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アンケートの結果を提示し、道徳的価値を自分の事として捉えられるように促す。</li> <li>※ よいと思ってもなかなか行動に移せない心の弱さを理解しているか(反応)</li> <li>・ 親切な行いをしたかったのに実践できなかったという児童の経験から、本時のめあてにつなげる。</li> </ul>
価値の焦点化・追究	<p>3 教材文「落とし物」を読んで、考えていきたい問題について話し合う。</p> <p>(1) 一度は探すのを諦めたのに、2人はなぜまた探し始めたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 諦めたら後悔すると思ったから。</li> <li>・ 女の人と赤ちゃんが可哀そうだから。</li> </ul> <p>(2) もし、自分が未来さんだったら、鍵を探しますか。それともさくらの所に行きますか。</p> <p>ア グループで イ 全体で</p> <p>【かぎを探す】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 困っている人を助けたい</li> <li>・ 赤ちゃんの命が危ない</li> <li>・ 寄せ書きは後からでも渡せる</li> </ul> <p>【さくらの所に行く】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 見送りに遅れるかもしれない</li> <li>・ 遅れたらクラスの人にも悪い</li> <li>・ 友情も大切</li> </ul> <p>4 親切な行いのためにはどのような気持ちが必要かを考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 困っている人を優先</li> <li>・ 相手のことを考える</li> <li>・ 思いやりの心をもつ</li> </ul> </div>	30 ⑩ ② ⑬ ④	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 範読後、挿し絵(人物の相関図)を用いることで、話のあらすじを確認し、考えさせたい場面に焦点化していく。</li> <li>・ 理由について、「自分だったら」と問うことで、自分との関わりで考えさせる。</li> <li>・ 自分の立場を明確にするために、ネームプレートを黒板に貼らせる。考えが変わった際には、裏返して色の違いで考えの変容を可視化する。</li> <li>※ 友達の意見を聞いて、自分の考えが増えたり、変わったりしているか (発言・ワークシート)</li> <li>・ 全体での発表の前に立場毎にグループになり、話し合うことで自分の考えに自信をもたせる。</li> <li>・ 全体発表では、切り返しの発問を行うことで、考えを深めさせる。</li> <li>※ 相手の立場に立って考えているか (発言・ワークシート)</li> <li>※ 自分が登場人物と同じような場面に出合った時、自分はどうすればよいかを考えているか (発言・ワークシート)</li> <li>・ 本時のような場面では、その気持ちがどのような行動につながるかを問う。</li> </ul>
価値の自覚化	<p>5 「これまでの自分」「授業で学んだこと」「これからの自分」という観点で考えたことを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 困っている人を優先して行動したい</li> <li>・ 相手のことを考えて行動したい</li> </ul>	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学んだ道徳的価値を自分の行動としてとらえられるようにする。</li> <li>※ 授業を終えて、自分はこうありたいという考えを言葉や文字に表しているか</li> <li>・ (発言・ワークシート)</li> </ul>
価値の意欲化	<p>6 アンケート結果を振り返り、これからの行動について考える。</p>	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ペアで意見を交流する際に、感想や質問、励ましの言葉をかけ合うことで、考えを深めたり、自己肯定感を高めたりすることができるようにする。</li> <li>※ 授業を終えて、自分はこうありたいという考えを言葉や文字に表しているか (発言・ワークシート)</li> </ul>

(4) 板書計画



(5) 教師の主な発問と児童の反応

主な学習活動と教師の発問	児童の意識	指導上の留意点(※評価の視点)
<p>1 親切な行動について振り返る。            T みんな親切な行動がしたいんだね。ケガをしている友達の本を返してあげたりできたんだね。親切な行動をしたいのに、できなかったのはなんでだろうね。            2 めあてを立てる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">             親切なことをするためには、どんな気持ちが大切だろう。           </div>	<p>C 転んでいる人を助けてあげた。            C 恥ずかしかった            C 知らない人だった            C 勇気が出なかった</p>	<p>・パソコンでアンケート結果を提示する。            ・めあてにつなげる。</p>
<p>3 教材文を読み、考えていきたい問題を考える。            ① 今読んだ話を振り返ります。            T 今日の主人公は、誰かな。(人物関連図)            T 未来と明日香はどこに行くところかな。何のために行くのかな。            T 途中で誰かと出会うね。なんで困っているのだろうね。            Q 1 一度は探すのを諦めたのに、2人はなぜまた探し始めたのかな。</p> <p>② Q 2 未来さんたちの行動は親切だね。けど、さくらさんの見送りに遅れていたかもしれないよ。自分だったらどうするかな。自分の立場に丸をして理由を書きましょう。</p> <p>切り返しの発問 <b>※できるだけ子供たち同士で議論</b>  <b>【かぎを探す派へ】</b>            T さくらの見送りに遅れてもいいの。            T クラスのみんなで作った寄せ書きを渡せなかったら、みんなに責められるかもしれないよ。            T 女の人と赤ちゃんには親切だけど、さくらからしたら親切な行動とは言えないんじゃないか  <b>【さくらの所に行く派へ】</b>            T 赤ちゃんは風邪を引いているから早く家に帰らないと命に関わるかもしれないよ。            T さくらは見送りのことを知らないから、遅れても悲しまないんじゃないかな。            T さくらには親切だけど、女の人と赤ちゃんからしたら親切な行動とは言えないんじゃないか</p> <p>4 <b>Q 3 みんなで話し合うことで自分の考えが深まりましたね。では、親切なことをするためにはどんな気持ちが大切なのか。(めあて)</b>  <b>T 今日のお話だとその気持ちを大切にすると、どんな行動をすることになるかな。</b></p> <p>5 3つの観点で考えたことを書き、発表する。            6 アンケート結果を振り返り、これからの行動について考える。            T アンケートでは、お年寄りの手伝いができなかったみたいだけど、次見かけたときは、どんなことを考えてどう行動すればいいかな。  <b>T みんなが親切な心をもって、親切な行動ができれば、黒木小も黒木の地域のみなさんも、もっと温かい雰囲気になるでしょうね。</b></p>	<p>C 未来            C さくらの見送りに行って、寄せ書きを渡す            C 女の人と赤ちゃん。鍵を無くした。赤ちゃんは風邪を引いていて早く家に帰らないといけない            C 赤ちゃんがかわいそうだった            C 女の人をつぶやきが聞こえた  <b>【かぎを探す】</b>            C 困っている人を助けたい            C 赤ちゃんが危ない            C さくらも大切だけど、赤ちゃんの命に関わるから            C 寄せ書きは後からでも渡せる            C さくらには後からでも説明できる  <b>【さくらの所に行く】</b>            C 見送りに遅れるかもしれない            C みんなで作った寄せ書きを渡さないといけないから            C 友情も大切だから</p> <p>C 困っている人を優先する            C 相手の立場に立って考える            C 思いやりの心をもつ</p>	<p>・教材文範読(4分)            ・登場人物の同士の関係を確認。人物関連図を作る。            ・問題の焦点化。</p> <p>・ネームプレートを黒板に張らせる。            ・考えが変わった児童はその場でネームプレートを裏返させる。</p> <p>・温かい言葉をかけることで、価値実践の意欲化を図り授業を終える。</p>